

「できる人」の見分け方・育て方（3）

軽視されがちな「書く能力」

前回のこのメルマガのコーナーで、よくできる人は、きっちりとした文章を書けるとい
うことについて述べました。今回はその続編です。

実は、日本では、どういうわけか「書く能力」について、特に高等教育になると、あま
り重視されていません。「読み・書き・そろばん」と称して、書くことが重要な能力の一角
という認識があったはずなのですが。

コミュニケーション力

先日 2013 年 8 月 20 日の Sankei Biz の記事に、昨今の学生の就活力が下がっていること
に関連して、就職を控えた学生にとって必要なのは、何よりも「コミュニケーション力」
であると述べられていました。そして、その必要な「コミュニケーション力」をどうやっ
て身につければよいか記されていました。

（「内定塾」講師、水本幸太郎氏の執筆記事です。）

読まれた方も居られると思いますが、以下で若干フォローアップしてみましよう。

この記事では、コミュニケーション力は、「話す力」、「聴く力」、「読む力」の 3 つから構
成されると述べられています。ここに「書く力」が要素に含まれていないことが、私なり
のポイントなのですが、この点はあとで触れることにしましょう。

話す力

この記事にも書かれているとおり、「話す力」は通常、コミュニケーション力の最も重要
な構成要素と考えられています。就職面接に限った話ではありませんが、話すことを通じ
て、相手に自分の主張をうまく伝えられないとコミュニケーションは成立しませんから、
これはある意味、当然です。

聴く力

2 番目は「聴く力」です。自分から一方的に話すだけでは、もちろんコミュニケーション
は成立しません。相手の話すことに耳を傾けて聴くこと、そしてその内容を理解して自分
の話に適宜反映させることが重要です。

この話す力と聴く力があれば、一応のコミュニケーションは形の上では成立します。

読む力

この記事が興味深いのは、それに加え「読む力」の重要性が指摘されていることです。「空
気が読める」とか「読めない」というのは、学生どうしの会話でもよく話題に上るよう

すが、ここで「読む力」とは、相手の質問の意図、真意をきっちり理解できるかどうかということ。

就職面接で、面接官の質問の意図を全く読まず、表層的な質問としてだけ捉えてしまい回答している学生が多いようです。「この面接官は私にいったい何を聞きたいのだろう」と自身に問いかけないといけません。

書く力が3つの能力の根底に

コミュニケーションのこの3つの力は、実は私のいう「書く力」と大きく関わっています。書く力を鍛えることで、話す力・聴く力・読む力の全てを伸ばすことが可能になります。

口頭で話すだけだと、ICレコーダーなどに記録しているときは別として、あとに残りませんから、ある種の「ごまかし」もできないことはありません。自分のわからないところには触れず、適当に話していてもその場は繕うことが可能です。

ただ、当然のことながら、それでは就職面接のような重要な場でのコミュニケーションとしては不足です。

書いて鍛えられる能力

こうしたオフィシャルな場で話す際には、自分の述べるべきことをある程度は理路整然と述べる能力が試されています。この力を身につけるためには、やはり「書くこと」が重要なのです。書くことを通じ、構想力と要約力、全体を組み立てる力を鍛えてやるのが重要です。

しかも、書くとき自分の文章があとに残りますから“ごまかし”は効きません。

テーマを決めて書く

あるテーマについて文章を書くという作業は、当然読み手を意識して書かないといけませんから、何が求められているかを「読み」、またそのテーマについて、これまで一般にはどのように考えられ、議論されてきたのかを調べ（これは「聞く力」とも関係します）、それらを要約的にまとめてから、自分の主張を展開しないといけません。

書くことは手間暇がかかり面倒ですが、「書く力」がコミュニケーション力アップに欠かせない要素であることを知って頂ければと思っています。

株式会社インソース <http://www.insource.co.jp/>

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-19-1 神田橋パークビル 5階

TEL : 03-5259-0070 FAX : 03-5259-0075